

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4570102899
法人名	有限会社 ライフサービス宮崎
事業所名	グループホーム だんらん
所在地	宮崎市大島町国草136-3 (電話) 0985-28-0900

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1丁目101番地
訪問調査日	平成 20 年 3 月 6 日

【情報提供票より】(20年 2月18日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 6 月 26 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 4 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 4 人	

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り 1 階建ての 階 ~ 1 階部分
------	-----------------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円) <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

(4)利用者の概要(3月6日現在)

利用者人数	8 名	男性 1 名	女性 7 名
要介護1	6 名	要介護2	1 名
要介護3	1 名	要介護4	名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 87.4 歳	最低 84 歳	最高 98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	こざわ内科
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは幹線道路の近くで周囲には各種の医療機関の揃った閑静な住宅地の一角にある。広い庭に機能的な造りで日当たり良く明るい。この1年以内に管理者や職員の殆どの交替と、利用者の半数の入・退居で更新されている。しかし職員と入居者の会話や行動は自然で違和感なく居心地のよく、入居者はそれぞれに居場所をもち、ゆったりと過ごして居られる。また心身機能に応じた家事や日常生活の自立に向けて、体を動かすことに自発的参加で満足感があり、職員のそれとなく行う支援が基本理念にも繋がっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題について、改善の取り組みをすすめている。事業所外への連絡や記録用紙の改善など工夫を検討している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価について、日頃の職員の会話や記録から管理者がピックアップして職員に確認するなど、日々の介護支援のなかで考え、折にふれ話し合っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議はまだ取組みがなされていない現状である。市町村との連携はよく、自治会入会はしている。地域密着型の意義や運営推進会議の活かし方など話し合い、また関係機関への相談を進めながら、運営推進会議を開催してほしい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時には必ず声かけをして話しやすい雰囲気作りに心掛け、何でも言える関係作りを努力している。また家族会は総会や行事に合わせて定期的開催し、すべての報告を正直に行い、家族からも意見や苦情を出やすくしている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会入会はしているが、最近では回覧板を廻すのみになっている。以前は行事にも参加した事もあるので運営推進会議開催も含めて前向きに進め、ホームの行事の参加や災害対策訓練へのボランティア参加など考えていきたい意向である。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自立支援」「症状の緩和」「日常生活の充実」の理念を掲げており、地域からの入居者も多いことから特に「だんらん」への入居によりレベルダウンはしてはならないと、日々の支援を実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内の各所に、自然な形で理念が掲示されており、職員も受け止め共有し日々の取組みに役立っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会入会はしているが、最近では回覧板を廻すのみになっている。周辺地域の散歩時や、買い物、理髪店利用などは日常的に行っている。		自治会を通じての老人会参加やホームの行事参加への招待など、地元の人々と交流することに努めてほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部及び自己評価の意義の理解は徐々にすすんでおり、日々の介護支援のなかで考え、折にふれ話し合っている。管理者も自分の目標に対して職員の協力を得ながら具体的に改善計画シートなど計画中である。		現在の職員間のコミュニケーションと雰囲気大切に育てながら日々の努力を望みます。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議についてはまだ取組みがなされていない。	○	運営推進会議での意見をサービス向上に活かすため、関係機関との連携・事業所設置者の協力も得ながら、会議出席者への協力をはかり、開催に向け取り組んでほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日常の業務では市町村との連携でよりよいサービス提供を目指しているが、必要な運営推進会議などのアドバイスも受けていないのが現状である。		日頃の業務の中で市町村担当者と管理者は連携を深め、必要な指導やアドバイスは受けられるようにしてほしい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時には必ず声かけをし話しやすい雰囲気作りに心掛け、何でも言える関係作りに努力している。随時に報告・相談を行っている。職員の異動については入職者の紹介は行っていたが、これからは退職者の報告もしていく予定である。		定期的に「だんらん通信」を発行している。今後も発展的に続行してほしい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満、苦情を管理者や職員にいつでも言える雰囲気づくりや外部者へ表せる機会や案内はしている。家族会も定期的に開催し、家族だけで話し合う時間もとっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者の交代と一時期の職員の異動に伴ったダメージを乗り越え、少ない職員数ながら現在はよい環境が育ちつつある。	○	利用者への影響を考慮し、運営者と共に職員が異動や離職につながらないように働き続けられる労働環境づくりに努力してほしい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	連絡協議会などの行う研修には勤務内で参加できている。個々の希望もあるがレベルの平均化を考慮し、管理者が平等に計画して参加している。研修参加後の復命書記載はない。	○	事業所内でも定期的な勉強会など研修の機会を計画してほしい。また研修受講後は復命書など記録を残し、他の職員も情報を共有してトレーニングや育成に生かしてほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・職員共に近くの同業者の相互訪問をして施設見学を行ったことはあるがネットワーク作りや勉強会はできてない。	○	運営者も他法人の同業者との交流や連携づくりに取り組んでほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新入居者に対しては個人情報をできるだけ収集し、入居後できるだけ早くなじめるように活用している。また入居時にあわせて茶話会をしてお互いに自己紹介などをして早くなじめる工夫をしている。入居前のホーム訪問やお試し利用などはしていない。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者・職員共お互いに日常生活の中の諸動作を通して支え合っている。教えを請うと同時に料理など参加してもらいながら実践指導をうけ、職員からの尊敬やほめ言葉が聞けて満足の笑いが起こる場面がある。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は入居者の生活行動に注意しながら、本人の性格や生活習慣を確認し、入居者一人ひとりのペースで生活できるように工夫し調整している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、知人や医療関係者と職員などの日常的な会話の中で必要な意見やアイデアを聞き、関係者全員参加で利用者本意の介護計画になるようにしている。しかしアセスメントツールの作成や利用は行っていない。		職員と共に使いやすいアセスメントツールを検討しモニタリングを充実させて介護計画に反映させてほしい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的介護計画の見直しとは別に、心身の変化に即した介護計画を本人家族と関係者を交えて時期をずらすことなく変更し支援を行っている。		モニタリングを活かして、安定している利用者の場合も月に1回程度は、新鮮な目で今の意向や状況を確認して見直しにいかしてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状況変化に伴い柔軟に支援したい意向はあるが、相談を受けたことや、該当者への声かけなど行っていない。	○	本人や家族のこれまでの地域とのつながりを切らないように、また地域の中での事業所の役割としての取り組みや支援を行ってほしい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族の希望を大切に、入居前からの主治医へ通院したり、協力医療機関の2回/月の訪問診療を受けている。診療録がファイルされ、薬や塩分・水分の変更指示について日誌などで申し送られ職員全員のサインがあった。		管理者は入居者全員が 定期健診をされているか、見過ごさないようにチェックしてほしい。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在のところ、重度化や終末期に向けた体制はなく、具体的な方針の共有はできていない。	○	早い段階で本人や家族と、重度化や終末期について打ち合わせ、方針の共有化に取り組んでほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりのプライバシーに配慮しながら分かりやすく親しみやすい言葉かけに注意している。業務日誌などの記載についても個人情報の取り扱いに問題はなかった。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どんな時でも入居者優先をモットーに介護支援している。入居者に職員サイドの押し付けをしないようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備から片付けまで、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に食事に関わる作業と会話がなされている。	○	職員も入居者と同じ食事をとれるよう工夫してほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。身体機能的に応じた支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームでの1日を通して、入居者の一人ひとり、できる事が皆の役に立って、やりがいを感じられるように、職員は声かけや一緒に作業したり、傍にいて会話を楽しんだりしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	管理者や職員の外出時、順番に買い物や食材の買出しに同行している。冬季を除いて夕方に全員ホーム周囲の散歩に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の不穏が強い時は、戸外へ同行して気分転換を図るようにしているが、状況により短時間玄関に鍵をかけざるを得ないときがある。しかしすぐに解除できるように支援に心掛けている。	○	鍵をかけない意識を高く持ち続け、鍵をかけない工夫をしてほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年間の防災計画を立て定期的に訓練の予定。直近は1月に火災避難訓練を行っている。緊急時の連絡体制は一目瞭然に掲示してあった。しかし地域との連携が無い。	○	地域の人々の協力を得られる体制作りや避難時のホーム独自のマニュアルづくりを行ってほしい。(避難時の介護用品や食料・水分の計画的な確保を含めて)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食前体操や食後の口腔ケアなど適切な支援で健全な食生活につながっている。季節の食材を使用し味付けも健康的で量も適切である。入居者は楽しく食事をされている。		利用者の病状によっては、主治医と相談しながら、水分や塩分摂取の支援をしてほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭には木や季節の草花が植栽され、内には家族の提供による季節の花があふれている。共用の空間は広々と余裕があり機能的で、日当たりよく明るい。死角が殆んど無く、移動しながら随所で体操や体力訓練を行える工夫がしてある。入居者は職員のさり気ない声かけで体を動かし楽しんでおられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどの方が仏壇や神棚・家族の写真、鏡台などの持込をされており、それぞれの想いのある部屋になっている。		